いわき市の経済・景気の動き

TRAIL

経済・景気動向調査報告「トレイル」
第 72 号　2021 年 3 月 19 日発行

いわき市産業振興部

【全国】コロナ前水準への復帰過程で持ち直し。ただし一部には弱さがみられる！　先行きは今次の“緊急事態宣言”解除後の動向次第！

【いわき市】コロナ禍の悪化テンポのなか、やや下げ止まってきた分野がみられる！

【経済・景気四方山話】身近な日常話題3話
- **スマホとトリセツの“デジタル格差”！**
- **言葉の変化に見られる世代間格差！**
- **ジャーナリズムの使命の再認識！**

GDP（実質値）推移

年	期	四半期	兆円	前期比	年率
20	Ⅰ	1-3月	527	0%	-2%
	Ⅱ	4-6月	484	-8%	-29%
	Ⅲ	7-9月	507	5%	21%
	Ⅳ	10-12月	542	3%	13%

20 年第 4 期（10-12 月）における生産活動を表す **GDP 成長率**（1 次速報。2/15 発表）は、個人消費と設備投資等の増加で、2 四半期連続のプラス成長の 3.0%*（実質値。年率 12.7%）となった。ただこの“プラス成長”は、第 2 四半期の過去最悪の落ち込みの取り戻しに過ぎない。

* 2 次速報値は 2.8%（年率 11.7%）に下方修正（3/9 発表）。

経済・景気全般の総合判断を示す「**月例経済報告**」（2/19 発表）は、“持ち直しの中、一部に弱さ”がみられ、10 か月振りに引き下げた。2 回目の緊急事態宣言（1/7 発表）以降、設備投資、輸入、企業収益がプラスの中、個人消費が冷え込んだため。

先行きについて「**月例経済報告**」では、“内外の感染拡大による下振れリスク”を喚起している。具体的に“下振れリスク”の最たるものは“緊急事態宣言”の解除後の“リバウンド”や“4 波”で、これらの動向に大きく左右されることになる。

目　　次

全国：コロナ前水準への復帰過程で持ち直し。ただし一部に弱さがみられる！
先行きは今次の緊急事態宣言解除後の動向次第！

いわき市：コロナ禍の悪化テンポのなか、やや下げ止まってきた分野が見られる！

経済・景気四方山話：身近な日常話題３話！

【いわき市の動向】

Ⅰ　経済・景気調査：2020 年第４四半期(10～12 月)
1. 経済の動き（主要部門別・主要経済データ）・・・・　3
2. 景気の動き（景気動向指数）・・・・・・・・・・　9

【参考】－ 景気動向指数の内容　－ 国・県の動き

Ⅱ　景気ウォッチャー調査：2021 年２月時点　・・・・・　16

■ いわき市の動向

● 経済・景気調査

いわき市経済・景気判断の推移（2020年）

四半期	経済景気の判断	月	号
第1：1-3月	“下降”のなか、3月には新型コロナ禍の影響！今後の悪化に懸念！	6	69
第2：4-6月	深刻な“コロナ禍”！回復努力に期待！	9	70
第3：7-9月	今期も“コロナ禍”の影響！強まる先行き不透明感！	10	71
第4：10-12月	コロナ禍の悪化テンポのなか、やや下げ止まってきた分野がみられる！	3	72

昨年１月よりコロナ禍の影響が色濃いが、今期は、悪化テンポがやや緩やかになっている分野が見られる。

【需要動向】

前年水準と比べ、大型小売店等販売額は微増。新設住宅戸数、建築確認等もそれぞれ増加。だが自動車が二桁の減少、観光施設利用者数等は減少幅こそ縮小しているものの減少、振るわない。

【企業動向】

中央卸売市場取扱高こそ前年水準を上回ったものの、信用保証承諾額の急増、コロナ禍によって中小企業等の資金繰り悪化している。

【雇用動向】

新規求人倍率と有効求人倍率は、9 月以降、低水準ながら前年より微増。雇用保険受給者は依然高水準だが、11 月と 12 月は増加が抑えられている。雇用環境の改善に向かうことが期待される。

●景気ウォッチャー調査（21 年 2 月時点）

景気ウォッチャー調査（21/2）

区分	現状判断DI 今回	現状判断DI 前回差	先行判断DI 今回	先行判断DI 前回差
全業種	29.7	-19.7	46.6	8.6
家計	25.5	-24.1	46.8	8.0
小売	30.8	-18.2	42.3	-1.7
飲食	6.3	-56.2	50.0	12.5
サービス	14.5	-37.9	48.7	15.4
住宅	50.0	20.8	58.3	20.8
企業	34.6	-4.7	38.5	8.1
雇用	58.3	-9.6	62.5	16.1

現状 DI は、住宅を除きコロナ禍の浸透で大幅に下落。業種別には飲食とサービスの下落幅が大きい。先行 DI は回復期待感が反映されている。

“自由意見”では、コロナ禍の影響を訴えるものが圧倒的に多い。ただ中に“新しい仕事の増加”があるのに力づけられる。　（産業創出課）

■ 経済・景気四方山話：身近な日常話題3話

【キーワード】トリセツ、標準化・共通化、日本的用法・英語的用法、カタカナ表記、ジャーナリズムの使命

● スマホとトリセツの“デジタル格差”[*1]！

最近、諸手続き・提供サービスをスマホに限定するケースが多くなってきた。しかし現状のスマホの普及率（下表）では、利用できない人や年齢層がでてくる。販売サイドがマーケティング戦略として利用できない人々を無視するのはいいが、公共部門のサービス等が利用できない人が出るのは問題だ。現状の普及率では、スマホ利用とスマホ以外方法の二本立てにするなど、デジタル格差が拡がらないような制度設計が必要であろう。

区分	全体	年齢別（歳）		
		6～19	20～59	60～79
スマートホン	63%	35-77%	80-88%	27-56%
参考：パソコン	50%	24-42%	64-69%	31-49%

（注）令和元年10月、総務省調査。調査対象は抽出母集団。

トリセツ（取扱説明書。2015 年、同名の曲のヒットで普及）に絡む問題がある。最近、デジタル製品のトリセツが簡記され過ぎているか、電子媒体（スマホ、PC 等）で見せる例が多くなってきている。購入後に上のようなトリセツの扱いに気が付く例も多い。デジタルの扱いに慣れている人はいいが、不慣れな人や PC を扱えない人がいる現状では困る。ただ最近は、“早押し・長押しによる切り換え”、“ON・OFF マーク”、“工事・設定マーク”等、共通なものが多くなってきて、ユーザーも少し慣れてきた。慣れた人が多くなれば解決するが、 それまでは“業界申し合わせ”などで“標準化・共通化”を進めたらどうか。

[*1]“デジタル格差”は本誌第 70 号 2020 年 9 月参照。

● 言葉の変化に見られる世代間格差！

第一は、老若間の会話に見られる言葉上の格差である[*2]。「これ嫌い？」と聞かれて“嫌い”という意思を伝える時、①「ウン、嫌い！」と②「イヤ、嫌い！」のどちらで答えるか。①は日本的用法、②は英語的用法であるが、高齢者は①で、英語の影響が強い若年層は②で返答する。両方とも“嫌い”とい否定文が付いているので“嫌い”という意思は通じるが、「ウン」「イヤ」だけだと混乱する。例えば、高齢者が「嫌い？」と問われ、②の「イヤ！」と日本語的風用法で返答すると、否定しているので「好き」と解釈されてしまう。今後、このような格差は確実に進むのだろう。

第二は、カタカナ表記（カタカナ語）の格差である。かってカタカナ表記は極力避けられていた。その後、全く新しい概念の普及、新鮮さを強調する、適当な日本訳語がない、などで受け入れられ始め、今では、すでに理解が広まっているもの、カタカナでしか表現できないもの、にまで広がってきた。今回のコロナ禍では、“クラスター”、“オーバーシュート”等のカタカナ表現が飛び交っており、国会審議でもカタカナ語を交えた質疑が多い。これでは理解できる人と理解できていない人とで格差が生まれる。“理解できない人は勉強せよ”ではなく、日本語で言えることをわざわざカタカナ語で言う必要はない。まして進取気どりで得意になって使う輩はご免被りたい。カタカナ語をできるだけ少なく努力が必要だ。

第三は、言葉の意味の格差である。元々“愛す”という言葉は日本語になかった。恋人を“愛す”とは言わず“好き”と言った。それが洋画・英語等の影響で今の“愛す”が普遍化した。だから動物や物を“愛す”のには、まだ若干の抵抗がある。これは 50 年以上前からの変化である。コンビニで「袋、大丈夫ですか？」と聞かれて、あわてて自分が持っている紙袋の破れを確認したのが 10 数年前のこと。今では、“必要ですか”の意味で平気で使っている。というように言葉は時代経過で変わる。こういう老若格差は、生活の中で解決されていくのであろう。

[*2]“第一”は本誌第 48 号平成 26 年 9 月号参照。

● ジャーナリズムの使命の再認識！

ジャーナリズムには、峻別された情報を的確に提供する役割が期待されているが、最近はそう見えないことが多い。先日、コロナ禍に関する首相の TV 記者会見で、 記者がテーマ以外の「桜を見る会」の質問したがこれはおかしい。それに丁寧に答えていた首相はもっとおかしい。視聴者はより多くのコロナ禍対策の情報を知りたいのだ。

なぜこのような質問が出て来るのか。上記の場合は、場をわきまえず自分の所属マスコミ社の購読者数や視聴率を優先して質問をしたのに違いない。“幹事社”の当番制も良くない。当番の質の悪い質問がそのまま出て来る恐れがある。さらに“質問は１つ”の枠組みが守られていないこともある。指名された記者のほどんどは、“加えて”とか“さらに”といって複数の質問をしている。峻別された質問一つに集中してほしい。マスコミ各社は、記者会見のルールを守るのは当然のこと、上質な情報を提供するというジャーナリズムの使命を再認識してほしいものだ。

（東日本国際大学名誉教授　大川信行）

Ⅰ　経済・景気調査：令和2年第Ⅳ四半期（10～12月）

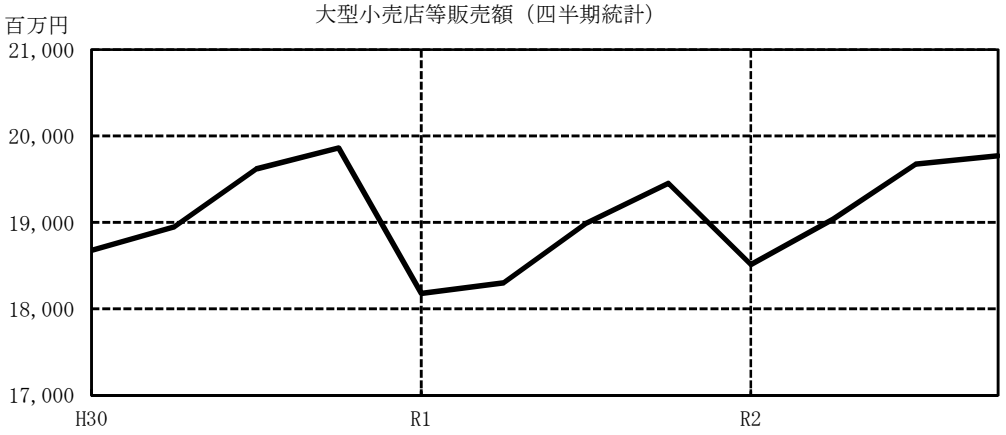
1　いわき市の経済の動き

（１）　主要部門の動向（令和2年第Ⅳ四半期（10～12月）の状況）

① 需要動向

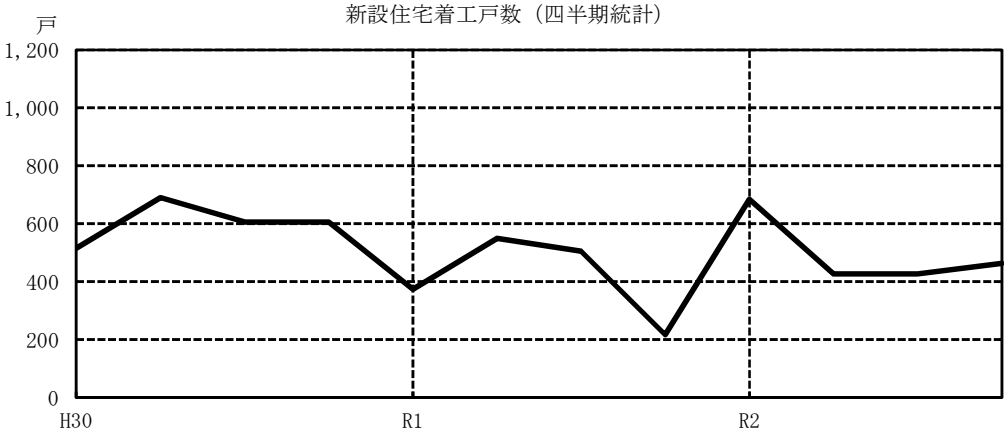
【個人消費】 ○ 第Ⅳ四半期（10～12月）の大型小売店等販売額は約198億円（前年同期比1.6%の増加）となり、4四半期連続で前年の水準を上回った。

○ 自動車新規登録台数は4,542台（前年同期比15.2%の減少）となり、4四半期連続で前年の水準を下回った。



【建設需要】 ○ 新設住宅着工戸数は463戸（前年同期比113.4%の増加）となり、3四半期振りに前年の水準を上回った。

○ 公共工事等受注額は約163億円（前年同期比68.6%の増加）となり、2四半期振りに前年の水準を上回った。



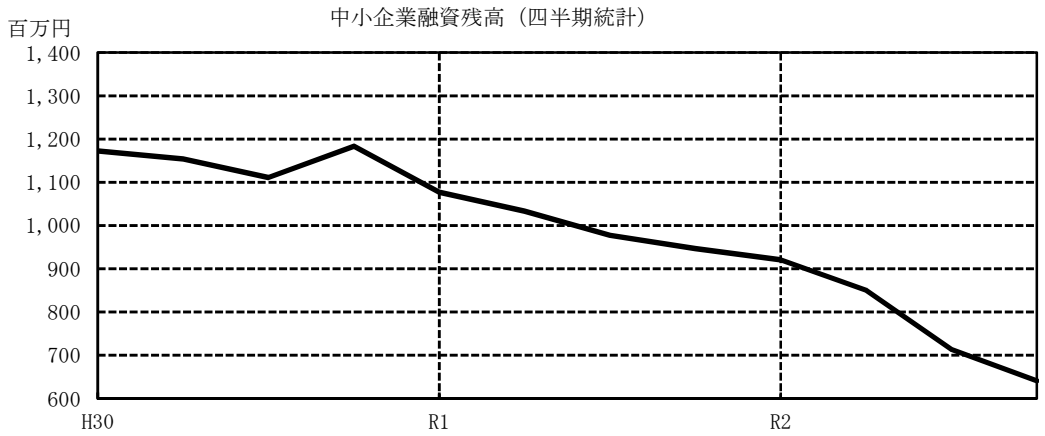
【観光需要】 ○ 観光施設利用者指数は、62.0（前年同期比17.5%の低下）となり、6四半期連続で前年の水準を下回った。

② 企業動向

【生産活動】 ○ 第Ⅳ四半期（10～12月）のいわき市中央卸売市場取扱高は約41億円（前年同期比16.8%の増加）となり、2四半期連続で前年の水準を上回った。

【企業活動】 ○ いわき市中小企業融資残高は約6.4億円（前年同期比32.3%の減少）となり、8四半期連続で前年の水準を下回った。

○ 負債1千万円以上の企業倒産件数は3件（前年同期と同水準）となった。

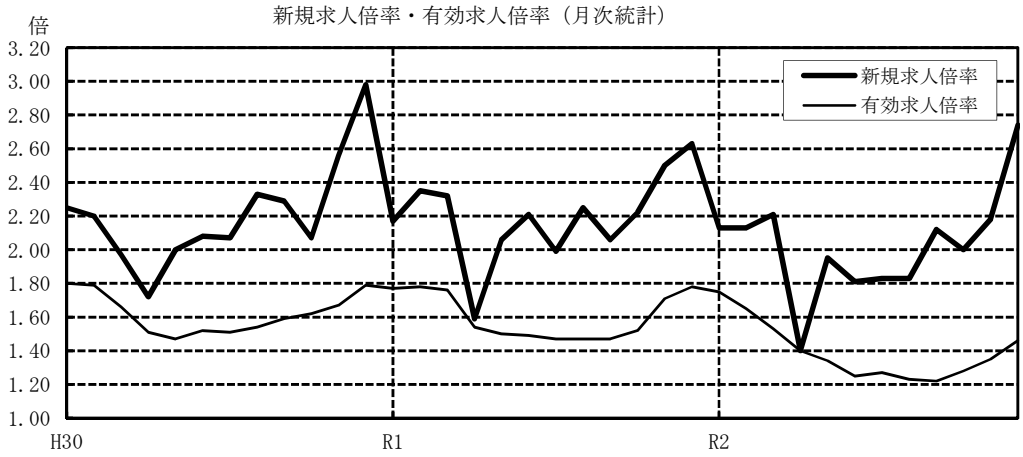


③ 雇用情勢

【雇　　用】 ○ 12月の新規求人倍率は2.74倍（前年同月より0.11ポイントの上昇）となり、3ヵ月振りに前年の水準を上回った。

○ 12月の有効求人倍率は1.46倍（前年同月より0.32ポイントの低下）となり、13ヵ月連続で前年の水準を下回った。

○ 第Ⅳ四半期（10～12月）の雇用保険受給者実人員は3,869人（前年同期比10.5%の増加(=悪化)）となり7四半期連続で前年の水準を上回った(悪化した)。



（２）主要経済データ

区分	需要動向													
	個人消費				建設需要						観光需要			
	大型小売店等販売額	前年同期比	自動車新規登録台数	前年同期比	新設住宅着工戸数	前年同期比	建築確認申請受付件数	前年同期比	公共工事等受注額	前年同期比	観光施設利用者指数	前年同期比	入湯税調定人員	前年同期比
年月	（百万円）	（%）	（台）	（%）	（戸）	（%）	（件）	（%）	（百万円）	（%）	（H24・四半期平均＝100）	（%）	（人）	（%）
【年次統計】														
平成28年	81,763	2.5	20,034	-4.5	3,420	12.4	1,559	-11.0	49,098	1.5	398	-6.8	706,408	-7.4
29年	79,785	-2.4	20,681	3.2	3,448	0.8	1,467	-5.9	42,827	-12.8	398	0.1	696,264	-1.4
30年	77,103	-3.4	20,332	-1.7	2,417	-29.9	1,292	-11.9	23,677	-44.7	391	-1.8	678,555	-2.5
令和元年	74,924	-2.8	21,098	3.8	1,646	-31.9	1,084	-16.1	45,162	90.7	370	-5.4	640,323	-5.6
令和2年	76,999	2.8	18,105	-14.2	2,001	21.6	995	-8.2	47,501	5.2	193	-47.9	359,932	-43.8
【四半期統計】														
平成31年 Ⅰ	18,180	-2.7	6,032	-2.9	374	-27.4	299	-10.7	22,010	369.8	76.2	-9.7	166,264	0.7
令和元年 Ⅱ	18,301	-3.4	4,466	-2.3	550	-20.3	293	-13.3	4,121	61.4	90.4	2.2	150,151	-8.3
Ⅲ	18,989	-3.2	5,243	10.8	505	-16.7	272	-15.5	9,374	31.3	128.3	-2.3	168,606	-7.7
Ⅳ	19,454	-2.1	5,357	11.2	217	-64.2	220	-25.9	9,657	3.9	75.2	-13.5	155,302	-7.0
令和2年 Ⅰ	18,513	1.8	5,631	-6.6	684	82.9	222	-25.8	13,889	-36.9	56.1	-26.4	161,119	-3.1
Ⅱ	19,037	4.0	3,347	-25.1	427	-22.4	237	-19.1	7,978	93.6	10.5	-88.4	31,310	-79.1
Ⅲ	19,677	3.6	4,585	-12.6	427	-15.4	288	5.9	9,350	-0.3	64.3	-49.9	55,549	-67.1
Ⅳ	19,772	1.6	4,542	-15.2	463	113.4	248	12.7	16,283	68.6	62.0	-17.5	111,954	-27.9
【月次統計】														
平成31年1月	6,165	-1.6	1,749	1.9	115	-49.3	75	-24.2	4,869	198.3	23.6	-6.0	55,513	3.2
2月	5,618	-3.7	1,891	-0.3	147	-5.2	112	0.9	1,542	249.7	21.9	-9.2	50,460	7.3
3月	6,397	-2.7	2,392	-7.9	112	-15.8	112	-10.4	15,599	497.2	30.7	-12.8	60,291	-6.3
4月	6,018	-3.9	1,353	-7.2	145	-56.7	105	0.0	1,182	8.6	27.7	-1.4	51,167	-11.5
令和元年5月	6,157	-3.9	1,478	1.7	89	-53.6	96	-1.0	914	76.8	34.7	7.0	47,762	-18.7
6月	6,126	-2.4	1,635	-1.4	316	93.9	92	-32.4	2,025	113.4	27.9	0.1	51,222	8.7
7月	6,129	-7.3	1,680	6.0	215	-24.0	94	-17.5	2,174	45.1	32.4	-5.3	45,690	-7.4
8月	6,708	-1.2	1,459	9.1	79	-66.1	85	-15.0	2,717	88.2	63.1	2.7	49,648	-7.1
9月	6,152	-1.0	2,104	16.1	211	134.4	93	-13.9	4,483	6.8	32.7	-8.2	73,268	-8.3
10月	5,936	-3.9	1,289	-21.1	143	-32.9	71	-37.2	5,354	5.9	22.2	-22.9	55,266	-0.4
11月	5,961	0.2	2,337	33.5	13	-91.1	65	-39.8	2,534	65.5	26.1	-12.4	47,817	-8.8
12月	7,557	-2.3	1,731	20.8	61	-75.3	84	10.5	1,769	-34.8	26.9	-5.0	52,219	-11.7
令和2年1月	6,043	-2.0	1,640	-6.2	178	54.8	72	-4.0	1,897	-61.0	24.8	5.1	55,217	-0.5
2月	5,916	5.3	1,717	-9.2	368	150.3	73	-34.8	2,501	62.2	22.9	4.8	56,886	12.7
3月	6,554	2.5	2,274	-4.9	138	23.2	77	-31.3	9,492	-39.2	8.3	-73.0	49,016	-18.7
4月	6,185	2.8	1,124	-16.9	165	13.8	80	-23.8	730	-38.2	2.1	-92.4	20,442	-60.0
5月	6,434	4.5	851	-42.4	66	-25.8	66	-31.3	2,246	145.7	0.5	-98.6	7,694	-83.9
6月	6,418	4.8	1,372	-16.1	196	-38.0	91	-1.1	5,002	147.0	7.9	-71.8	3,174	-93.8
7月	6,405	4.5	1,485	-11.6	152	-29.3	94	0.0	3,188	46.6	17.0	-47.6	8,779	-80.8
8月	7,047	5.1	1,243	-14.8	148	87.3	95	11.8	2,668	-1.8	25.9	-58.9	18,273	-63.2
9月	6,225	1.2	1,857	-11.7	127	-39.8	99	6.5	3,494	-22.1	21.4	-34.7	28,497	-61.1
10月	6,223	4.8	1,633	26.7	174	21.7	87	22.5	4,170	-22.1	19.3	-12.8	35,442	-35.9
11月	6,005	0.7	1,588	-32.0	154	1,084.6	80	23.1	2,038	-19.6	23.3	-10.8	37,682	-21.2
12月	7,544	-0.2	1,321	-23.7	135	121.3	81	-3.6	10,075	469.4	19.4	-27.9	38,830	-25.6
出典：	いわき市産業創出課		いわき自動車検査登録事務所、全国軽自動車協会連合会いわき支所		県土木部		市建築指導課		いわき市建設業協同組合、(社)福島県建設業協会いわき支部		いわき市産業創出課（市内主要観光施設の利用者数を指数化）		いわき市市民税課	

（注）－は「調査データなし」または変化率の分母が0になる場合。速報値を含む。
四半期統計においてⅠは1～3月、Ⅱは4～6月、Ⅲは7月～9月、Ⅳは10～12月を示す。

区分	企業動向											
	生産活動				企業活動							
	いわき市中央卸売市場取扱高	前年同期比	小名浜港輸入通関実績	前年同期比	いわき市中小企業融資残高	前年同期比	いわき市中小企業融資利率	前年同月比	信用保証承諾額	前年同期比	信用保証協会代位弁済	前年同期比
年月	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(%)	(%p)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
【年次統計】												
平成28年	14,214	-2.1	224,693	-25.7	1,235	-13.6	2.03	-0.2	17,079	-7.1	608	60.9
29年	14,058	-1.1	319,842	42.3	1,207	-2.3	1.94	-0.1	15,790	-7.5	496	-18.5
30年	13,933	-0.9	378,337	18.3	1,155	-4.3	2.04	0.1	18,640	18.1	602	21.6
令和元年	12,898	-7.4	345,294	-8.7	1,009	-12.7	2.05	0.0	21,136	13.4	964	60.1
令和2年	13,550	5.1	321,606	-6.9	781	-22.5	2.13	0.1	67,962	221.6	560	-41.9
【四半期統計】												
平成31年 Ⅰ	2,681	-9.9	85,287	-19.6	1,077	-8.1	1.88	-0.21	4,810	1.4	549	550.5
令和元年 Ⅱ	3,311	0.1	100,669	5.6	1,033	-10.4	2.19	-0.01	5,189	16.0	100	-44.8
Ⅲ	3,435	-5.2	81,893	-8.3	977	-12.0	2.05	0.18	5,706	29.0	193	377.4
Ⅳ	3,471	-13.8	77,445	-11.6	947	-20.0	2.08	0.09	5,430	8.5	122	-58.7
令和2年 Ⅰ	2,831	5.6	74,638	-12.5	921	-14.5	2.00	0.13	6,310	31.2	243	-55.8
Ⅱ	3,078	-7.0	89,268	-11.3	851	-17.7	2.20	0.01	27,678	433.4	113	12.2
Ⅲ	3,587	4.4	82,469	0.7	713	-27.0	2.20	0.15	21,271	272.8	142	-26.2
Ⅳ	4,054	16.8	75,231	-2.9	641	-32.3	2.20	0.12	12,703	133.9	63	-48.6
【月次統計】												
平成31年1月	944	3.7	34,950	-11.7	1,083	-7.6	1.60	-0.50	1,027	-14.6	72	10,524.4
2月	938	0.0	31,610	-7.4	1,077	-7.6	1.88	-0.33	1,583	5.5	37	107.4
3月	799	-29.1	18,727	-42.1	1,072	-9.2	2.15	0.21	2,200	8.0	440	566.8
4月	1,176	10.2	39,673	29.0	1,050	-9.7	2.16	-0.04	1,469	6.2	0	-100.0
令和元年5月	1,053	-7.2	28,851	-27.5	1,032	-11.0	2.20	0.00	1,756	7.7	96	-
6月	1,082	-2.2	32,145	29.7	1,019	-10.6	2.20	0.00	1,964	34.7	5	-87.3
7月	1,150	-3.8	31,595	-3.4	995	-11.8	2.20	0.43	1,987	26.7	79	-
8月	1,231	-2.2	22,179	10.5	962	-13.6	2.20	0.43	1,663	14.0	22	723.5
9月	1,054	-10.1	28,119	-23.1	975	-10.6	1.75	-0.30	2,056	47.3	92	143.9
10月	1,026	-7.4	20,179	-44.5	956	-30.7	2.20	0.11	1,578	10.4	25	-5.7
11月	1,121	-1.1	31,312	23.8	945	-11.9	2.20	0.35	1,645	17.2	62	-39.2
12月	1,324	-25.8	25,954	-0.2	939	-14.4	1.85	-0.20	2,207	1.8	34	-79.3
令和2年1月	995	5.4	21,821	-37.6	928	-14.4	2.20	0.60	1,588	54.7	14	-80.0
2月	758	-19.2	25,264	-20.1	925	-14.1	1.60	-0.28	1,668	5.4	63	70.3
3月	1,079	35.1	27,553	47.1	910	-15.0	2.20	0.05	3,054	38.8	165	-62.4
4月	970	-17.5	29,469	-25.7	888	-15.4	2.20	0.04	3,832	160.9	49	-
5月	1,039	-1.3	33,087	14.7	868	-15.9	-	-	10,263	484.4	64	-33.2
6月	1,069	-1.2	26,712	-16.9	795	-21.9	-	-	13,582	591.6	0	-100.0
7月	1,225	6.5	29,546	-6.5	740	-25.6	-	-	9,497	377.9	15	-80.9
8月	1,260	2.3	20,951	-5.5	717	-25.5	2.20	0.00	6,376	283.5	0	-100.0
9月	1,102	4.6	31,972	13.7	684	-29.8	2.20	0.45	5,397	162.5	127	38.2
10月	1,141	11.2	32,673	61.9	660	-31.0	2.20	0.00	4,270	170.6	15	-41.3
11月	1,011	-9.8	25,594	-18.3	640	-32.2	-	-	3,640	121.3	13	-79.9
12月	1,902	43.7	16,964	-34.6	622	-33.7	2.20	0.35	4,793	117.2	35	2.6
出典：	いわき市中央卸売市場（水産）		横浜税関		いわき市産業創出課（年次統計は12カ月の平均値、四半期統計は3カ月の平均値） ”-”は実績なし。実績ない月は平均値算出から除く。				福島県信用保証協会			

（注）－は「調査データなし」または変化率の分母が0になる場合。速報値を含む。
四半期統計においてⅠは1～3月、Ⅱは4～6月、Ⅲは7月～9月、Ⅳは10～12月を示す。

区分	企業動向											
	企業活動		倒産				中小企業DI調査					
	法人市民税調定額	前年同期比	企業倒産件数	前年同期比	企業倒産負債総額	前年同期比	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	総合(全業種)
年月	(百万円)	(%)	(件)	(%)	(百万円)	(%)						
【年次統計】												
平成28年	4,532	-11.2	8	-	7,538	-	-	-	-	-	-	-
29年	4,610	1.7	9	12.5	2,295	-69.6	-	-	-	-	-	-
30年	5,111	10.9	15	66.7	9,581	317.5	-	-	-	-	-	-
令和元年	4,101	-19.8	14	-6.7	1,669	-82.6	-	-	-	-	-	-
令和2年	4,199	2.4	14	0.0	1,186	-28.9	-	-	-	-	-	-
【四半期統計】												
平成31年 Ⅰ	546	-28.4	4	-	1,174	-	-	-	-	-	-	-
令和元年 Ⅱ	1,273	-21.1	5	0.0	379	29.8	-	-	-	-	-	-
Ⅲ	920	-14.5	2	-50.0	37	-94.4	-	-	-	-	-	-
Ⅳ	1,363	-17.9	3	-50.0	79	-99.1	-	-	-	-	-	-
令和2年 Ⅰ	542	-0.7	5	25.0	629	-46.4	-	-	-	-	-	-
Ⅱ	1,434	12.6	2	-60.0	55	-85.5	-	-	-	-	-	-
Ⅲ	1,125	22.3	4	100.0	313	745.9	-	-	-	-	-	-
Ⅳ	1,099	-19.4	3	0.0	189	139.2	-	-	-	-	-	-
【月次統計】												
平成31年1月	156	27.2	1	-	830	-	-	-	-	-	-	-
2月	117	-31.4	1	-	150	-	-	-	-	-	-	-
3月	273	-41.8	2	-	194	-	-11.1	-37.5	-71.4	-46.2	-75.0	-33.3
4月	156	11.3	1	-50.0	55	-71.1	-	-	-	-	-	-
令和元年5月	322	-23.4	1	-50.0	200	376.2	-	-	-	-	-	-
6月	795	-24.5	3	200.0	124	106.7	-30.0	-50.0	-40.0	-62.5	-42.9	-39.6
7月	480	0.1	1	0.0	27	-86.0	-	-	-	-	-	-
8月	352	-29.2	0	-100.0	0	-100.0	-	-	-	-	-	-
9月	88	-11.4	1	0.0	10	-79.6	-34.3	-66.7	-44.4	-50.0	-50.0	-43.6
10月	129	-22.7	2	100.0	56	-93.5	-	-	-	-	-	-
11月	902	-35.6	0	-100.0	0	-100.0	-	-	-	-	-	-
12月	332	259.6	1	0.0	23	130.0	-14.3	-20.0	-11.1	-41.7	10.0	-15.9
令和2年1月	84	-46.5	4	300.0	593	-28.6	-	-	-	-	-	-
2月	147	25.7	0	-100.0	0	-100.0	-	-	-	-	-	-
3月	312	14.2	1	-50.0	36	-81.4	-50.0	-50.0	-33.3	-50.0	-40.0	-46.3
4月	170	8.7	0	-100.0	0	-100.0	-	-	-	-	-	-
5月	301	-6.5	1	0.0	26	-87.0	-	-	-	-	-	-
6月	963	21.1	1	-66.7	29	-76.6	-71.0	-30.0	-45.5	-70.0	-90.6	-64.4
7月	647	34.8	0	-100.0	0	-100.0	-	-	-	-	-	-
8月	345	-1.8	2	-	88	-	-	-	-	-	-	-
9月	133	50.7	2	100.0	225	2,150.0	-66.6	-50.0	-81.8	-41.6	-60.0	-61.7
10月	112	-13.7	1	-50.0	90	60.7	-	-	-	-	-	-
11月	915	1.5	2	-	99	-	-	-	-	-	-	-
12月	72	-78.3	0	-100.0	0	-100.0	-59.4	-40.0	-50.0	-80.0	-70.0	-59.8
出典：	いわき市市民税課(法人税割)		東京商工リサーチ（負債総額1,000万円以上）				福島県産業振興ｾﾝﾀｰ(前年同月比で「良化」-「悪化」社数構成比(各月末時点)) 平成17年4月以降3ヵ月毎に調査					

(注) －は「調査データなし」または変化率の分母が0になる場合。速報値を含む。
四半期統計においてⅠは1～3月、Ⅱは4～6月、Ⅲは7月～9月、Ⅳは10～12月を示す。

区　分	雇用						その他					
	新規求人倍率	前年同期比	有効求人倍率	前年同期比	雇用保険受給者実人員	前年同期比	高速道路出入交通量	前年同期比	いわき市景気ｳｫｯﾁｬｰ調査(先行きＤＩ)			
年　月	(倍)	(%p)	(倍)	(%p)	(人)	(%)	(千台)	(%)	家計動向	企業動向	雇用関連	総合
【年次統計】												
平成28年	2.14	0.02	1.67	0.00	13,934	-1.1	12,184	0.0	－	－	－	－
29年	2.12	-0.02	1.59	-0.08	14,073	1.0	12,117	-0.5	－	－	－	－
30年	2.21	0.09	1.62	0.03	13,079	-7.1	10,170	-16.1	－	－	－	－
令和元年	2.14	-0.07	1.57	-0.05	13,479	3.1	9,319	-8.4	－	－	－	－
令和2年	－	－	－	－	15,827	17.4	7,760	-16.7	－	－	－	－
【四半期統計】												
平成31年　Ⅰ	－	－	－	－	2,905	-6.1	2,176	-20.5	－	－	－	－
令和元年　Ⅱ	－	－	－	－	3,386	0.2	2,250	-11.3	－	－	－	－
Ⅲ	－	－	－	－	3,688	4.8	2,485	-1.8	－	－	－	－
Ⅳ	－	－	－	－	3,500	13.4	2,408	1.9	－	－	－	－
令和2年　Ⅰ	－	－	－	－	3,570	22.9	2,120	-2.6	－	－	－	－
Ⅱ	－	－	－	－	3,830	13.1	1,531	-32.0	－	－	－	－
Ⅲ	－	－	－	－	4,558	23.6	2,041	-17.9	－	－	－	－
Ⅳ	－	－	－	－	3,869	10.5	2,068	-14.1	－	－	－	－
【月次統計】												
平成31年1月	2.17	-0.08	1.77	-0.03	1,015	-3.4	720	-20.6	－	－	－	－
2月	2.35	0.15	1.78	-0.01	942	-5.7	660	-22.1	41.1	37.5	50.0	41.0
3月	2.32	0.35	1.76	0.10	948	-9.1	797	-19.1	－	－	－	－
4月	1.59	-0.13	1.54	0.03	1,060	3.1	754	-15.1	－	－	－	－
令和元年5月	2.06	0.06	1.50	0.03	1,155	-4.0	779	-9.8	37.3	28.1	56.3	36.4
6月	2.21	0.13	1.49	-0.03	1,171	1.9	717	-8.5	－	－	－	－
7月	1.99	-0.08	1.47	-0.04	1,278	8.9	794	-4.2	－	－	－	－
8月	2.25	-0.08	1.47	-0.07	1,229	-0.3	916	-0.5	39.5	30.8	43.8	38.1
9月	2.06	-0.23	1.47	-0.12	1,181	6.1	775	-0.9	－	－	－	－
10月	2.22	0.15	1.52	-0.10	1,143	2.6	818	3.0	－	－	－	－
11月	2.50	-0.06	1.71	0.04	1,166	17.8	803	1.1	37.8	42.3	25.0	38.1
12月	2.63	-0.35	1.78	-0.01	1,191	21.3	787	1.5	－	－	－	－
令和2年1月	2.13	-0.04	1.75	-0.02	1,246	22.8	740	2.8	－	－	－	－
2月	2.13	-0.22	1.65	-0.13	1,107	17.5	690	4.6	29.6	40.4	25.0	31.5
3月	2.21	-0.11	1.53	-0.23	1,217	28.4	689	-13.5	－	－	－	－
4月	1.40	-0.19	1.40	-0.14	1,161	9.5	488	-35.2	－	－	－	－
5月	1.95	-0.11	1.34	-0.16	1,162	0.6	450	-42.3	40.0	43.3	57.1	42.2
6月	1.81	-0.40	1.25	-0.24	1,507	28.7	593	-17.3	－	－	－	－
7月	1.83	-0.16	1.27	-0.20	1,564	22.4	671	-15.5	－	－	－	－
8月	1.83	-0.42	1.23	-0.24	1,514	23.2	691	-24.6	42.0	31.7	33.3	39.2
9月	2.12	0.06	1.22	-0.25	1,480	25.3	679	-12.4	－	－	－	－
10月	2.00	-0.22	1.28	-0.24	1,389	21.5	704	-13.9	－	－	－	－
11月	2.18	-0.32	1.35	-0.36	1,255	7.6	699	-12.9	38.8	30.4	46.4	38.0
12月	2.74	0.11	1.46	-0.32	1,225	2.9	664	-15.5	－	－	－	－
出典：	ﾊﾛｰﾜｰｸいわき（年間倍率は年度ベースの値）						株式会社ネクスコ・トール東北いわき事業部		いわき市産業創出課（H30.1調査開始）景気ウォッチャー（いわき市民）に景気の先行きを質問。良くなる（1点）、不変（0.5点）、悪く（0点）に回答者構成比を乗じて指数を算出。			

２　いわき市の景気の動き（景気動向指数）（令和2年第Ⅳ四半期（10～12月）の状況）

（１）　ＣＩ（ｺﾝﾎﾟｼﾞｯﾄ･ｲﾝﾃﾞｯｸｽ）

① 概要

12月のCIは、先行指数が71.9、一致指数が65.7、遅行指数が66.0となった。

② 指数別の動向（指数は平成27年の水準を100とする）

【先行指数】 12月は71.9ポイントで、3ヵ月連続で下降した。
寄与度がプラスの指標は、新規求人倍率（3ヵ月振り）、いわき市景気ｳｫｯﾁｬｰ先行き判断DI（2ヵ月振り）の2指標、マイナスの指標は、建築確認申請受付件数（2ヵ月振り）、鉱工業在庫率指数（逆）（3ヵ月連続）等の6指標であった。

【一致指数】 12月は65.7ポイントで、2ヵ月連続で下降した。
寄与度がプラスの指標は、有効求人倍率（3ヵ月連続）、中小企業ＤＩ（全業種）（3ヵ月振り）等の3指標、マイナスの指標は、小名浜港輸入通関実績（2ヵ月連続）、高速道路出入交通量（2ヵ月振り）等の5指標であった。

【遅行指数】 12月は66.0ポイントで、4ヵ月連続で上昇した。
寄与度がプラスの指標は、いわき市中央卸売市場取扱高（2ヵ月振り）、公共工事受注額（5ヵ月振り）等の4指標、マイナスの指標は、観光施設利用者指数（4ヵ月振り）、入湯税調定人員（6ヵ月振り）等の4指標であった。

※ＣＩの変化の大きさは景気の勢い（テンポ）を示す。

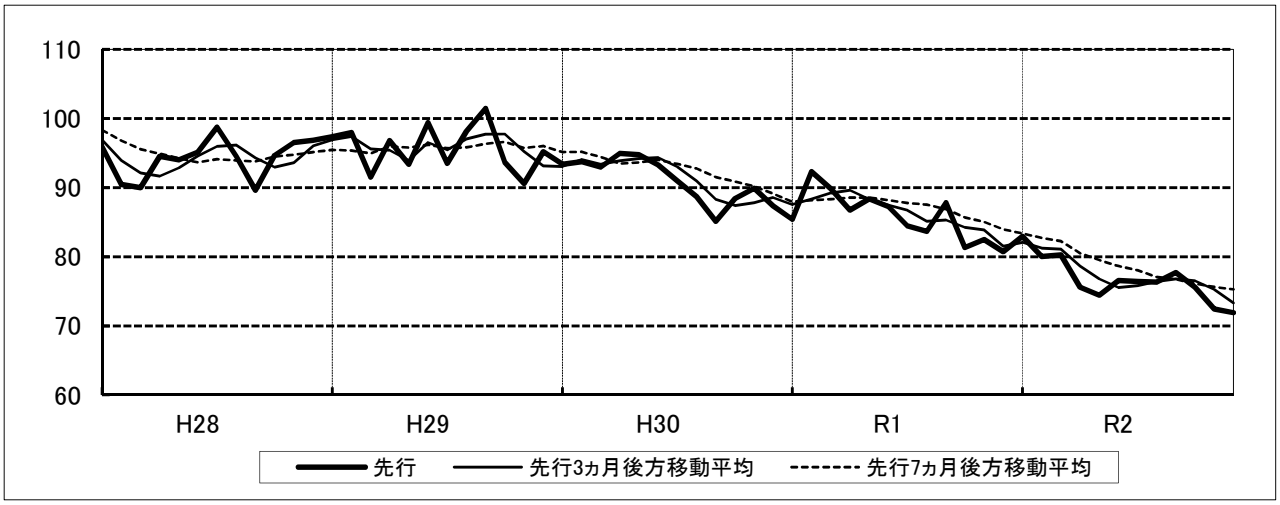
③ 指数の推移及び寄与度の内訳（ＣＩの上昇・下降がどの指標により引き起こされたか）（平成27年＝100）

区分		令和2年											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
先行指数（ＣＩ）		83.0	80.0	80.3	75.6	74.4	76.6	76.4	76.3	77.7	75.6	72.4	71.9
前月差(ﾎﾟｲﾝﾄ)（寄与度合計）		2.23	-2.94	0.26	-4.70	-1.14	2.13	-0.16	-0.09	1.38	-2.12	-3.14	-0.54
先行系列寄与度内訳	１．自動車新規登録台数	-2.76	-0.84	0.56	-1.70	-2.44	2.66	1.97	0.21	0.81	0.20	-1.36	-0.15
	２．新設住宅着工戸数	2.85	1.96	-2.26	-0.40	-1.86	2.62	-1.26	0.29	0.20	0.30	-0.18	-0.13
	３．建築確認申請受付件数	0.59	-1.06	-0.32	0.64	-0.52	0.89	0.46	1.05	-0.61	-0.52	0.31	-0.58
	４．鉱工業在庫率指数（逆）	0.34	-0.46	0.13	-0.37	-0.48	0.27	0.20	0.07	0.26	-0.90	-0.58	-0.52
	５．新規求人倍率	1.31	-0.92	2.52	-2.66	1.95	-1.81	0.00	-0.89	2.49	-0.80	-0.62	1.40
	６．いわき市中小企業融資残高	0.02	0.09	-0.39	-0.14	-0.20	-2.34	-1.41	0.10	-1.63	-0.35	-0.37	-0.45
	７．いわき市景気ｳｫｯﾁｬｰ先行き判断DI	0.04	-1.64	0.10	0.10	2.56	0.00	0.00	-0.73	0.02	0.02	-0.26	0.03
	８．一致指数トレンド成分	-0.16	-0.08	-0.09	-0.16	-0.14	-0.16	-0.12	-0.19	-0.16	-0.06	-0.06	-0.13
一致指数（ＣＩ）		74.5	72.4	70.1	66.6	66.1	66.0	69.0	63.2	64.6	69.4	67.3	65.7
前月差(ﾎﾟｲﾝﾄ)（寄与度合計）		-0.01	-2.14	-2.22	-3.53	-0.51	-0.08	3.02	-5.89	1.42	4.84	-2.09	-1.64
一致系列寄与度内訳	１．大型小売店等販売額	0.10	1.68	-0.64	0.08	0.36	0.05	-0.06	0.11	-0.77	0.76	-0.88	-0.19
	２．鉱工業生産指数	0.49	-1.28	1.16	-1.38	0.24	0.80	0.78	-1.61	1.04	1.61	-1.68	-0.27
	３．鉱工業出荷指数	0.13	-0.25	0.28	-0.84	-0.15	-0.02	1.64	-1.16	0.20	0.61	-0.28	0.09
	４．鉱工業在庫指数	-0.18	-0.39	-0.14	0.16	0.41	0.50	-0.62	-0.58	-0.41	0.89	0.66	-0.26
	５．小名浜港輸入通関実績	-0.58	0.44	0.18	-0.01	0.35	-0.43	0.16	-0.26	0.39	0.19	-0.27	-1.08
	６．有効求人倍率	-0.21	-1.73	0.29	0.00	-0.25	-1.51	0.14	-0.89	-0.86	0.82	0.14	0.36
	７．高速道路出入交通量	0.25	-0.61	-1.62	-1.53	-1.46	1.73	0.98	-1.47	1.68	-0.03	0.22	-0.41
	８．中小企業ＤＩ（全業種）	0.00	0.00	-1.74	-0.01	-0.01	-1.20	-0.01	-0.01	0.16	-0.01	-0.01	0.12
遅行指数（ＣＩ）		61.9	60.8	57.9	54.8	53.9	54.2	58.6	57.6	60.7	63.0	63.7	66.0
前月差(ﾎﾟｲﾝﾄ)（寄与度合計）		1.57	-1.01	-2.96	-3.10	-0.86	0.23	4.44	-1.02	3.16	2.23	0.70	2.28
遅行系列寄与度内訳	１．公共工事受注額	-0.91	0.22	-1.48	-0.18	0.36	0.78	0.22	-0.08	-0.35	-0.43	-0.22	1.49
	２．入湯税調定人員	0.63	0.24	-0.89	-1.31	-1.25	-1.22	1.44	1.45	1.02	1.50	0.66	-0.35
	３．観光施設利用者指数	0.98	-0.79	-1.38	-1.30	-1.22	1.37	1.41	-1.33	1.50	1.53	1.27	-1.53
	４．法人市民税調定額	-1.47	0.84	0.24	-0.02	-0.43	0.29	0.37	-0.61	0.77	-1.10	0.08	-0.16
	５．雇用保険受給者実人員（逆）	-0.52	1.44	-1.41	1.16	0.48	-1.29	0.04	0.02	0.17	0.46	0.47	0.70
	６．いわき市中央卸売市場取扱高	1.52	-1.42	1.47	-1.31	1.36	0.42	1.05	-0.32	-0.65	1.21	-1.50	1.59
	７．いわき市中小企業融資利率	1.46	-1.48	0.55	-0.02	-0.06	0.00	0.00	0.00	0.82	-0.89	0.00	0.66
	８．一致指数トレンド成分	-0.12	-0.06	-0.06	-0.12	-0.10	-0.12	-0.09	-0.14	-0.13	-0.05	-0.05	-0.12

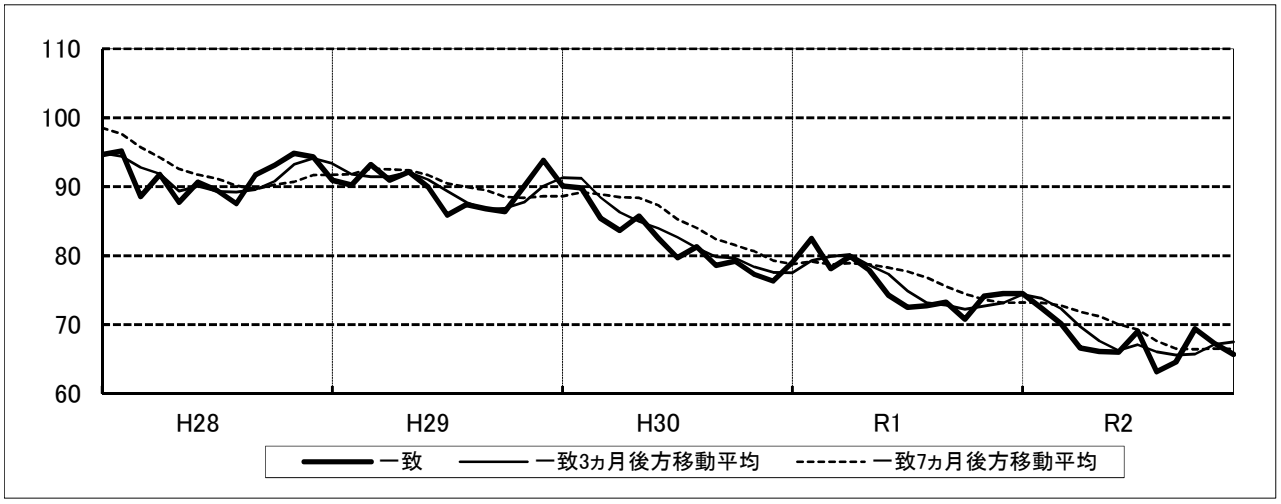
注1）ＣＩはトレンド（長期的趨勢）と、トレンド周りの変化を合成し作成される。
2）一致指数トレンド成分とは、一致指数の長期的趨勢が先行指数、遅行指数に与えた影響を示す。
3）寄与度とは、指数の変化にそれぞれの指標がどの程度の影響を与えたかを示す。

④ CIの推移

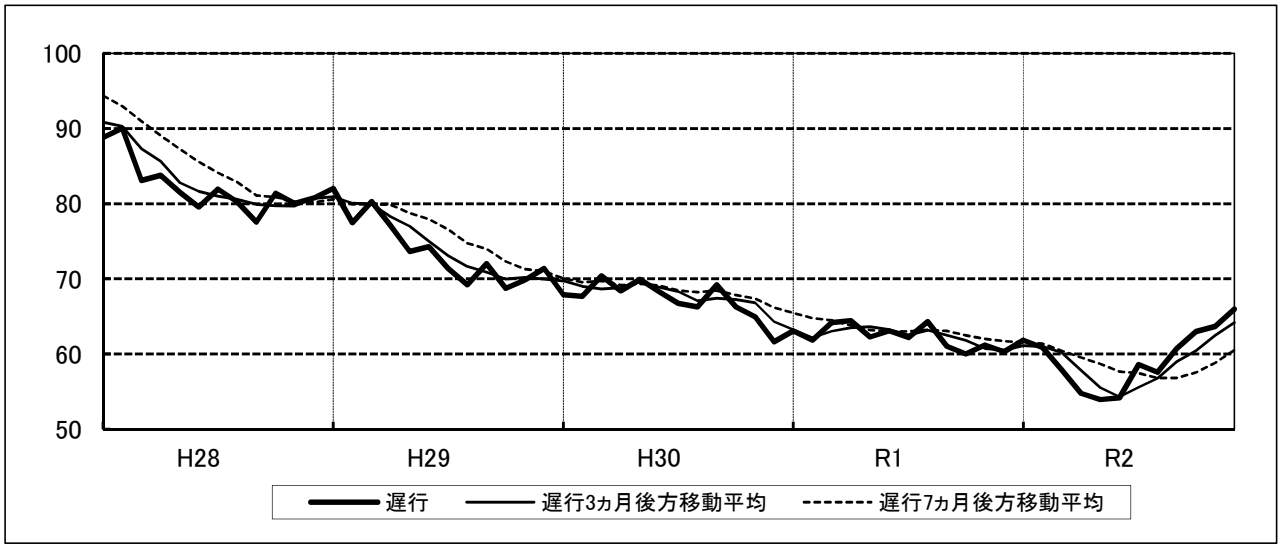
・先行指数の推移　（平成27年＝100）



・一致指数の動向　（平成27年＝100）



・遅行指数の動向　（平成27年＝100）



⑤ CIデータ

・先 行 指 数

（平成27年＝100）

年＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
23	50.0	53.4	46.1	40.3	46.3	51.1	63.5	75.5	73.9	79.0	86.9	79.1
24	102.4	104.0	97.0	116.5	118.3	122.6	117.2	107.1	100.5	107.8	102.7	105.2
25	106.4	110.7	116.1	111.3	118.0	118.5	127.4	127.6	119.0	118.4	130.3	120.9
26	121.0	131.6	123.5	102.7	113.1	112.8	113.6	112.4	111.9	111.2	105.7	110.0
27	109.5	98.9	105.6	98.2	96.0	99.4	101.0	98.9	99.0	98.6	99.3	95.5
28	95.9	90.5	90.0	94.5	94.0	95.1	98.8	94.5	89.6	94.7	96.5	96.9
29	97.3	97.9	91.5	96.8	93.4	99.4	93.5	98.1	101.5	93.7	90.6	95.2
30	93.4	93.7	93.0	94.9	94.8	93.3	90.9	88.7	85.1	88.4	89.9	87.4
1	85.4	92.3	89.9	86.8	88.4	87.3	84.4	83.6	87.8	81.3	82.5	80.7
2	83.0	80.0	80.3	75.6	74.4	76.6	76.4	76.3	77.7	75.6	72.4	71.9

・一 致 指 数

（平成27年＝100）

年＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
23	63.6	63.9	57.0	58.4	59.0	63.1	69.7	65.1	77.3	77.6	77.7	83.4
24	87.2	92.8	105.8	99.2	96.8	93.7	93.8	98.1	97.6	101.2	106.2	105.3
25	105.3	107.7	109.3	107.1	106.6	102.8	105.6	108.9	104.1	102.9	104.8	105.7
26	104.4	101.3	108.4	101.6	105.8	106.0	104.8	107.3	105.6	103.8	101.2	101.5
27	102.3	100.9	99.5	102.6	100.7	99.1	101.0	102.2	102.3	99.4	96.6	93.4
28	94.7	95.2	88.6	91.8	87.8	90.7	89.5	87.5	91.7	93.1	94.8	94.3
29	91.0	90.2	93.2	91.0	92.2	90.0	85.9	87.4	86.8	86.4	90.1	93.8
30	90.1	89.8	85.4	83.7	85.8	82.5	79.7	81.3	78.6	79.2	77.3	76.3
1	79.0	82.5	78.1	79.9	77.9	74.3	72.5	72.7	73.2	70.8	74.1	74.5
2	74.5	72.4	70.1	66.6	66.1	66.0	69.0	63.2	64.6	69.4	67.3	65.7

・遅 行 指 数

（平成27年＝100）

年＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
23	54.0	57.0	56.6	52.1	50.4	54.4	58.7	51.6	52.6	50.6	56.3	60.7
24	63.3	67.8	73.3	78.4	88.4	91.4	92.4	95.8	98.9	107.0	106.8	110.9
25	109.8	109.2	107.2	113.0	114.5	108.7	111.1	111.9	108.9	109.2	115.0	110.6
26	114.8	112.8	113.0	111.6	110.7	109.0	109.1	109.2	105.5	107.8	104.2	102.3
27	105.6	105.3	108.5	104.5	104.0	100.2	99.9	97.0	97.1	94.1	91.7	92.1
28	88.8	90.0	83.1	83.8	81.5	79.5	81.9	80.2	77.6	81.4	80.0	80.7
29	82.0	77.5	80.3	77.1	73.6	74.3	71.4	69.2	72.0	68.7	69.8	71.4
30	67.9	67.7	70.4	68.4	69.9	68.3	66.7	66.3	69.2	66.3	65.0	61.6
1	63.1	61.9	64.2	64.4	62.3	63.1	62.2	64.3	61.0	60.0	61.2	60.3
2	61.9	60.8	57.9	54.8	53.9	54.2	58.6	57.6	60.7	63.0	63.7	66.0

（２）　ＤＩ（ﾃﾞｨﾌｭｰｼﾞｮﾝ・ｲﾝﾃﾞｯｸｽ）

① 概要

【先行指数】 12月は、14.3%と3ヵ月連続で50%を下回った。

【一致指数】 12月は、25.0%と3ヵ月連続で50%を下回った。

【遅行指数】 12月は、71.4%と2ヵ月振りに50%を上回った。

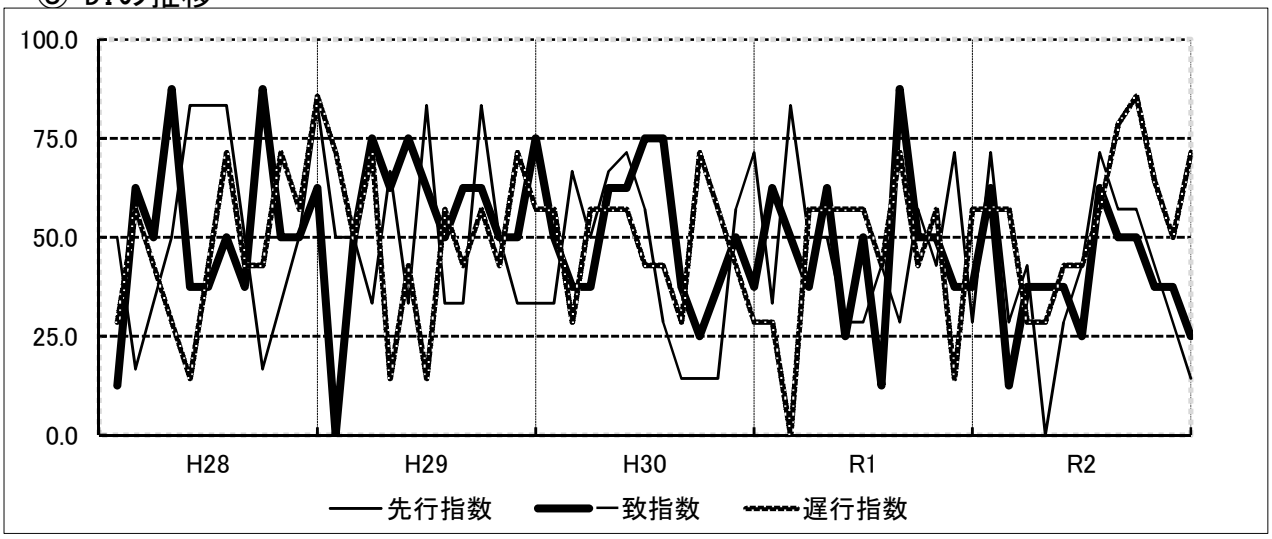
（注）各指数とも50%が景気の拡張期と後退期との境目とされる（-景気動向指数利用の手引き-参照）

② DIの推移

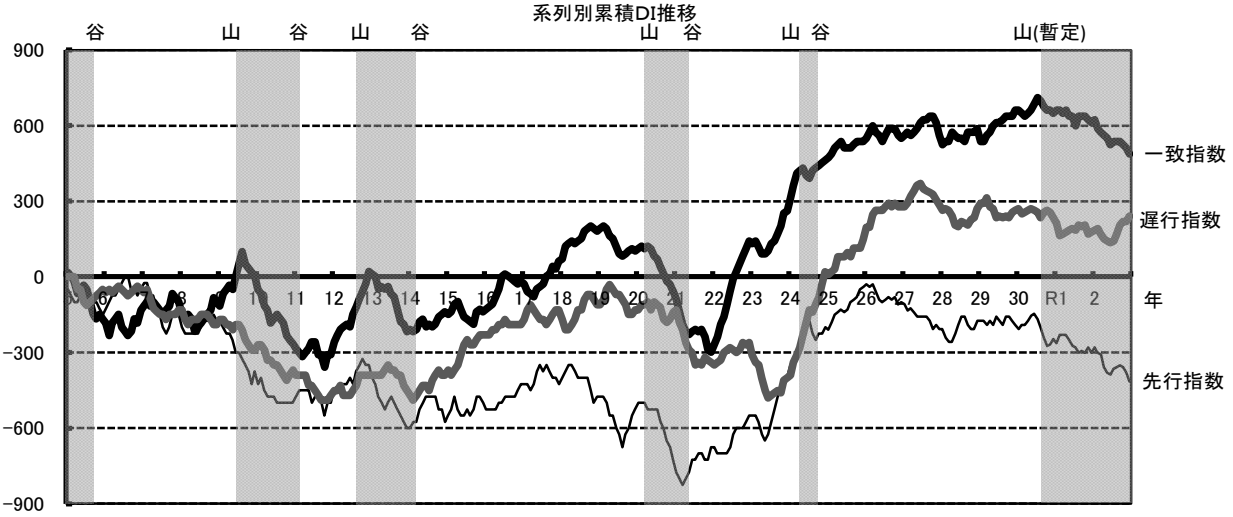
区　分	令和2年											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
先行指数（D.I）	71.4	28.6	42.9	0.0	28.6	42.9	71.4	57.1	57.1	42.9	28.6	14.3
一致指数（D.I）	62.5	12.5	37.5	37.5	37.5	25.0	62.5	50.0	50.0	37.5	37.5	25.0
遅行指数（D.I）	57.1	57.1	28.6	28.6	42.9	42.9	57.1	78.6	85.7	64.3	50.0	71.4

注)DIは、先行(7指標)、一致(8指標)、遅行(7指標)に属する各経済指標について、3ヵ月前と比較して改善している指標の割合を指数としている。

③ DIの推移



（参考）累積DIの推移（平成5年以降）



注1）累積指数は、基準月（平成5年1月）の値を0として各月のDIの値を次式により累積したものである。
累積DI(t)=累積DI(t-1)+(DI(t)-50)

注2）DI及び累積DIは景気の方向性のみを表すものであり、その水準や振幅の大きさは景気動向と無関係である。

注3）影の部分は国における景気後退期を示す。

-景気動向指数利用の手引き-

（１）景気動向指数の概要

○ 景気動向指数は、景気の勢いや方向性を知るために、景気の動きを敏感に反映する経済指標を組み合わせて作成された総合的な経済指標である。景気の勢いを示すＣＩ（コンポジット・インデックス)と、景気の方向性を示すＤＩ（ディフュージョン・インデックス）の2種類の指数があり、両者の動きを総合して景気の現状把握や将来予測等を行う。

○ ＣＩ、ＤＩはともに、景気に先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の３種類の指数を作成する。一致指数は景気の現状把握に利用する。先行指数は景気の動きを予測するために利用する。遅行指数は景気の転換点や局面の確認に利用する。

（２）ＣＩ（コンポジット・インデックス　Composite Index)の概要

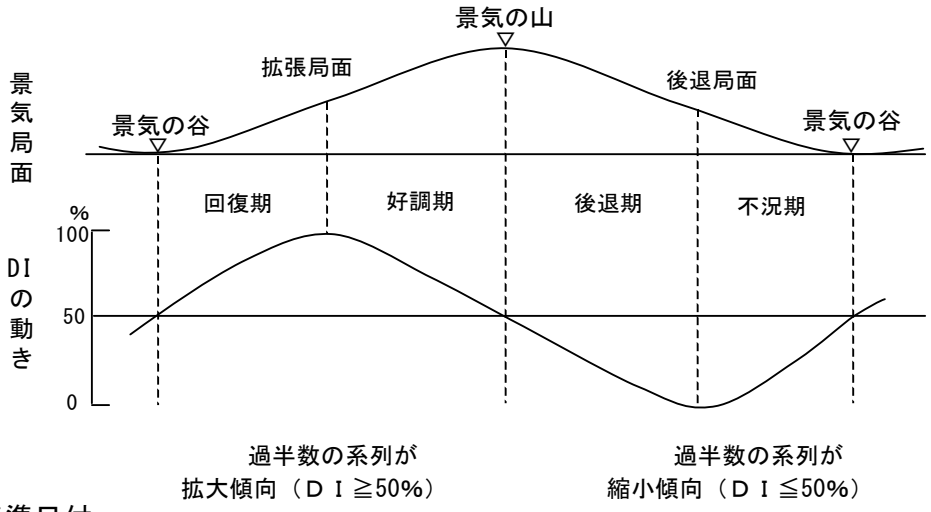
○ ＣＩは複数の経済指標の前月と比べた変化量を合成したものである。例えば、いわき市のＣＩでは、大型小売店等販売額等８つの経済指標の変化量を合成して一致指数を作成している(詳細な計算方法については、内閣府経済社会総合研究所のホームページ http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/menu_di.htmlを参照)。

○ ＣＩの変化の大きさは景気のテンポ（勢い）を示す。 景気の拡大期にはＣＩが上昇傾向を示し、後退期には下降傾向を示す。ただし、ＣＩは上昇・下降を繰り返しながら変化するため、景気局面の判断はＤＩを含めた総合的な指標によって判断する。

（３）ＤＩ（ディフュージョン・インデックス　Diffusion Index)の概要

○ ＤＩは、複数の経済指標の変化方向を合成したものである。採用指標の各月の値を３ヵ月前の値と比較して、改善した指標の割合がＤＩとなる。 例えば、いわき市の一致指数では８つの指標を採用するため、そのうち３つが改善したならば３÷８＝0.375（DI=37.5%）と計算する。

○ 一般に、50%を上回っているときが景気の拡張局面、50%を下回っているときが後退局面、50%を上から下に切るときが景気の山、50%を下から上に切るときが景気の谷とされる。



（４）景気基準日付

景気の山・谷（拡張局面と後退局面との転換点）を景気基準日付と呼ぶ。この景気基準日付は、ＤＩの動きのほか、他の主要経済指標の動きなども総合的に勘案して設定されるが、国では以下のように定めている。

景気基準日付（全国）

区分	谷	山	谷
第１循環		Ｓ26. 6.	Ｓ26.10.
第２循環	Ｓ26.10.	29. 1.	29.11.
第３循環	29.11.	32. 6.	33. 6.
第４循環	33. 6.	36.12.	37.10.
第５循環	37.10.	39.10.	40.10.
第６循環	40.10.	45. 7.	46.12.
第７循環	46.12.	48.11.	50. 3.
第８循環	50. 3.	52. 1.	52.10.

区分	谷	山	谷
第９循環	Ｓ52.10.	Ｓ55. 2.	Ｓ58. 2.
第10循環	58. 2.	60. 6.	61.11.
第11循環	61.11.	Ｈ 3. 2.	Ｈ 5.10.
第12循環	Ｈ 5.10.	9. 5.	11. 1.
第13循環	11. 1.	12.11.	14.1.
第14循環	14.1.	20.2.	21.3.
第15循環	21.3.	24.3.	24.11.
第16循環	24.11.	30.10(暫定)	

（５）いわき市の景気動向指数採用系列の概要

項目			内容	原データの出典
先行系列	1 自動車新規登録台数	季	代表的な耐久消費財である自動車の販売動向を示し、いわき市における消費動向が反映されている。	いわき自動車検査登録事務所、全国軽自動車協会連合会いわき支所
	2 新設住宅着工戸数	季	住宅への投資動向を表す。住宅投資の増加は建設資材需要や家具の買替え需要などの波及効果をもたらす。	福島県土木部
	3 建築確認申請受付件数	季	住宅を含む建設投資動向が反映される。家計の動向のみならず、企業等の景気見通しに影響される。	いわき市建築指導課
	4 鉱工業在庫率指数（逆）	季	鉱工業在庫指数/出荷指数により算出。景気回復局面に低下、悪化局面に上昇する。	福島県企画調整部
	5 新規求人倍率	季	月間新規求人数／月間新規求職者数で算出。労働需給の変化が敏感に反映され、特に景気の山の判定に活用される。	ハローワークいわき
	6 いわき市中小企業融資制度融資残高	前	いわき市の中小企業向け低利融資制度に係る融資残高であり、市内中小企業の資金需要の増減が反映される。	いわき市産業創出課
	7 いわき市景気ｳｫｯﾁｬｰ先行き判断DI	原	市内の様々な職種の景気ウォッチャーの方々の生活実感を指数化したもの。50が横ばい（もしくは景気の転換点）の水準。	いわき市産業創出課
一致系列	1 大型小売店等販売額	前	いわき市内の主要な大型小売店舗の販売額であり、本調査のため、いわき市独自で調査したデータ。	いわき市産業創出課
	2 鉱工業生産指数	季	鉱工業部門の生産数量を指数化したもの。県のデータをいわき市の産業構造を基に加工した市独自の指数。	いわき市産業創出課（原データ:福島県）
	3 鉱工業出荷指数	季	鉱工業部門の出荷数量を指数化したもの。県のデータをいわき市の産業構造を基に加工した市独自の指数。	いわき市産業創出課（原データ:福島県）
	4 鉱工業在庫指数	季	鉱工業部門の在庫数量を指数化したもの。県のデータをいわき市の産業構造を基に加工した市独自の指数。	いわき市産業創出課（原データ:福島県）
	5 小名浜港輸入通関実績	季	小名浜港を通関して輸入された貨物の金額。工業用原材料が多くを占める。	横浜税関
	6 有効求人倍率	季	月間有効求人数／月間有効求職者数で算出され、労働需給が反映される。	ハローワークいわき
	7 高速道路出入交通量	季	いわき市内インターにおける車両の出入交通量。	株式会社ネクスコ・トール東北いわき事業部
	8 中小企業DI（全業種）	原	企業経営者の景況感を指標化したもの。増加(好転)企業割合－減少(悪化)企業割合により算出。企業の生産・投資活動との関連性が高い。0が横ばい（もしくは景気の転換点）の水準。	福島県産業振興センター
遅行系列	1 公共工事受注額	移	いわき市内における公共工事の受注高。	いわき市建設業協同組合、(社)福島県建設業協会いわき支部
	2 入湯税調定人員	季	いわき湯本をはじめとする市内の温泉利用者数。観光客数の動向が反映されている。	いわき市市民税課
	3 観光施設利用者指数	季	いわき市内の主要観光施設の利用者数。平成25年第Ⅰ四半期を100として指数化したもの。	いわき市産業創出課
	4 法人市民税調定額	季	企業の所得変動を税収面から捉えた指標であり、過去1年間の経済活動の状況が反映される。	いわき市市民税課
	5 雇用保険受給者実人員（逆）	季	失業給付を受けている有効失業者数であり、景気に遅行し逆サイクルで動く。	ハローワークいわき
	6 いわき市中央卸売市場取扱高	季	いわき市中央卸売市場の青果部、水産部における取扱高。飲食需要が反映され、その増減に景気の動きが反映される。	いわき市中央卸売市場
	7 いわき市中小企業融資制度融資利率	前	いわき市の中小企業向け低利融資制度に係る融資利率であり、市内中小企業の資金需要の増減が反映される。	いわき市産業創出課

注)季：X-13ARIMA-SEATSによる季節調整値、前：原数値の前年同月比、原：（四半期）原数値、移：12ヵ月移動平均
逆：景気の上昇期に減少（低下）し、下降期に増加（上昇）するもの。

【参考】 国・県の動き

1 経済・景気の動向

(1) 国の動向	(我が国経済の基調判断) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。 ・個人消費は、このところ弱含んでいる。 ・設備投資は、このところ持ち直しの動きがみられる。 ・輸出は、増加している。 ・生産は、持ち直している。 ・企業収益は、感染症の影響により、非製造業では弱さがみられるものの、総じてみれば持ち直している。企業の業況判断は、非製造業を中心にこのところ慎重さがみられる。 ・雇用情勢は、感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、雇用者数等の動きに底堅さもみられる。 ・消費者物価は、横ばいとなっている。 先行きについては、緊急事態宣言の解除後も感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、内外の感染拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。 (内閣府「月例経済報告」令和3年2月公表分)
(2) 県の動向	県内の景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続いている。 ・個人消費……一部に弱い動きがみられる。 ・建設需要……高水準にあるものの、一部に弱い動きがみられる。 ・生産活動……一進一退の状況が続いている。 ・雇用・労働……厳しい状況にあるものの、一部に緩やかな改善がみられる。 ・物 価……企業物価指数、消費者物価指数はともに前年を下回っている。 ・企業・金融……企業倒産件数、負債総額はともに前年を下回った。預金残高、貸出残高はともに前年を上回った。 (福島県「最近の県経済動向」令和3年2月公表分)

2 景気動向指数(CI)

(1) 国の動向	12月のCI(速報値・平成27(2015)年=100)は、先行指数:94.9、一致指数:87.8、遅行指数:91.7 となった。 先行指数は、前月と比較して1.2 ポイント下降し、7ヵ月ぶりの下降となった。3ヵ月後方移動平均は0.54 ポイント上昇し、6ヵ月連続の上昇となった。7ヵ月後方移動平均は2.33 ポイント上昇し、4ヵ月連続の上昇となった。 一致指数は、前月と比較して1.2 ポイント下降し、2ヵ月連続の下降となった。3ヵ月後方移動平均は1.00 ポイント上昇し、6ヵ月連続の上昇となった。7ヵ月後方移動平均は2.30 ポイント上昇し、3ヵ月連続の上昇となった。 遅行指数は、前月と比較して0.7 ポイント上昇し、3ヵ月ぶりの上昇となった。3ヵ月後方移動平均は横ばいとなった。7ヵ月後方移動平均は0.03 ポイント下降し、17ヵ月連続の下降となった。 (内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」令和3年2月公表分)
(2) 県の動向	1 概 括 12月の景気動向指数(CI:コンポジット・インデックス、H27年=100)は、先行指数81.9ポイント、一致指数54.4ポイント、遅行指数91.7ポイントとなった。 先行指数は、前月(79.9ポイント)を2.0ポイント上回り、2ヵ月振りの上昇となった。 一致指数は、前月(54.7ポイント)を0.3ポイント下回り、5ヵ月振りの下降となった。 遅行指数は、前月(92.4ポイント)を0.7ポイント下回り、2ヵ月連続の下降となった。 2 一致指数の動向 寄与度をみると、所定外労働時間指数が7ヵ月連続のプラス、雇用保険受給者実人員が4ヵ月連続のプラス、有効求人倍率、建築着工床面積(鉱工業)が2ヵ月振りのプラスとなった。 一方、鉱工業生産指数、最終需要財出荷指数、百貨店・スーパー販売額が2ヵ月連続のマイナス、手形交換金額(1枚当たり)が2ヵ月振りのマイナス、生産財出荷指数が7ヵ月振りのマイナスとなった。 内訳をみると、手形交換金額(1枚当たり)がマイナス1.62ポイント、最終需要財出荷指数がマイナス1.10ポイント、鉱工業生産指数がマイナス0.98ポイント、百貨店・スーパー販売額がマイナス0.10ポイント、生産財出荷指数がマイナス0.04ポイントでこれらの指標の動きが下降に寄与した。 (福島県「福島県景気動向指数」令和3年2月公表分)

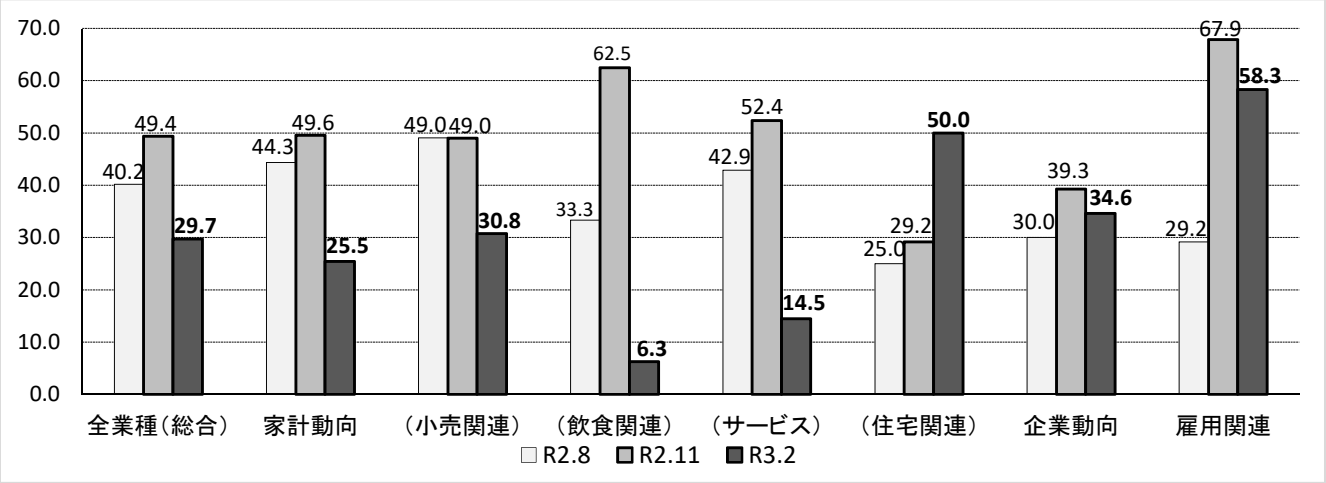
Ⅱ　いわき市景気ウォッチャー調査：令和3年2月時点

1　景気の現状について

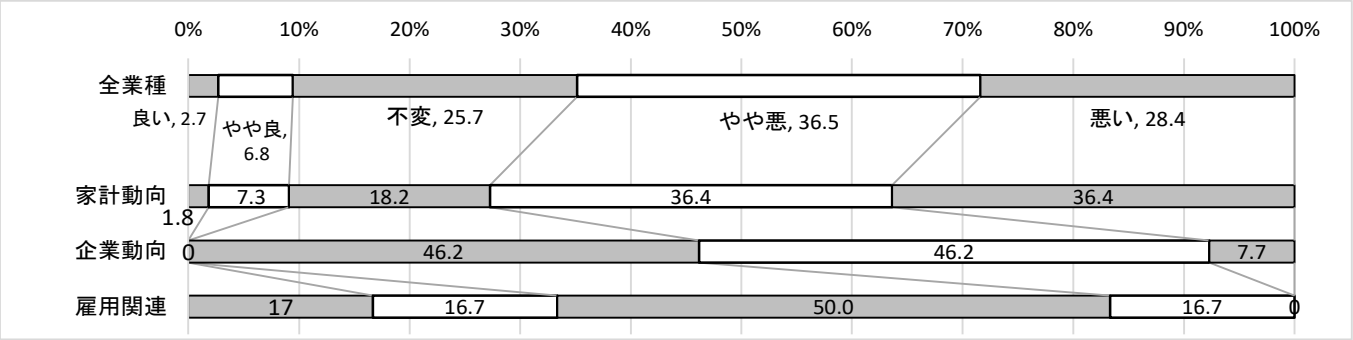
（1）現状判断DI

○ 全業種（総合）の現状判断DIは29.7と、前回より19.6ポイントの低下となった。家計動向、企業動向、雇用関連のいずれも低下した。

○ 主要業種別では、家計動向関連が25.5と前回より24.1ポイント低下した。家計の内訳では住宅関連が上昇したものの、それ以外の小売、飲食、サービスは低下した。企業動向関連は34.6と4.7ポイント低下し、雇用関連は58.3と9.5ポイント低下した。



○ 全業種（総合）の回答内容をみると、3ヵ月前と比べて「良くなっている」は2.7%、「やや良くなっている」が6.8%、 「変わらない」が25.7%、「やや悪くなっている」が36.5%、「悪くなっている」が28.4%となった。



（2）現状判断の理由

現状判断の理由として、家計では「来客者数の動き」、企業動向関連では「受注量や販売量」、雇用動向では「周辺企業の動き」などが多く挙げられた。

項　目（家計）	良い	不変	悪い	合計
1. 来客者数の動き	4	5	22	31
2. 販売量の動き	1	2	9	12
3. 単価の動き	0	0	1	1
4. お客様の様子	0	2	6	8
5. 競争相手の様子	0	0	0	0
6. それ以外	0	1	2	3
合　計	5	10	40	55

項　目（企業）	良い	不変	悪い	合計
1. 受注量や販売量	0	2	5	7
2. 受注価格や販売価格	0	0	0	0
3. 取引先の様子	0	4	2	6
4. 競争相手の様子	0	0	0	0
5. それ以外	0	0	0	0
合計	0	6	7	13

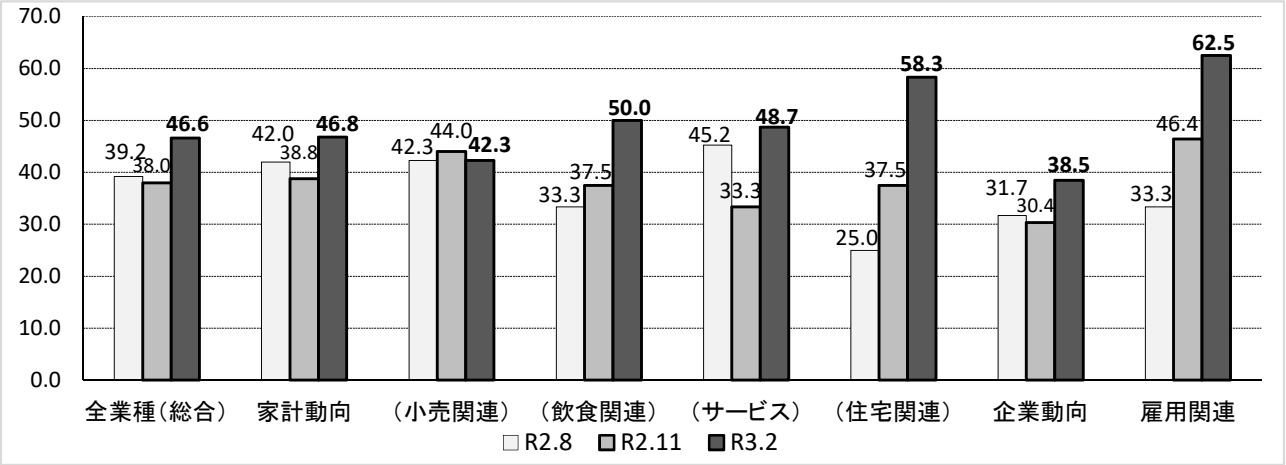
項　目（雇用）	良い	不変	悪い	合計
1. 求人数の動き	0	1	0	1
2. 求職者数の動き	0	0	0	0
3. 採用者の動き	0	0	0	0
4. 周辺企業の動き	1	1	1	3
5. それ以外	1	1	0	2
合計	2	3	1	6

２　景気の先行きについて

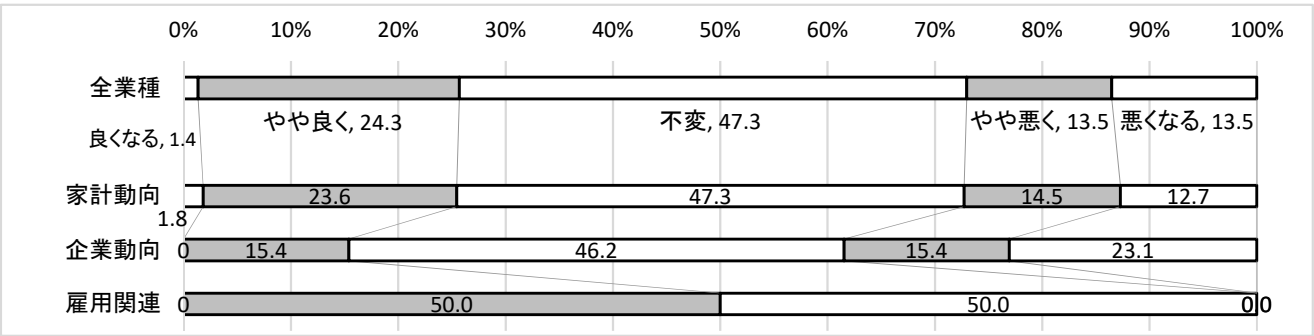
（１）先行き判断DI

○ 全業種（総合）の先行き判断DIは46.6と、前回より8.6ポイントの上昇となった。家計動向、企業動向、雇用関連のいずれも上昇した。

○ 主要業種別では、家計動向関連が46.8と前回より8.0ポイント上昇した。家計の内訳では小売が低下したものの、飲食、サービス、住宅関連は上昇した。企業動向関連は38.5と8.1ポイント上昇し、雇用関連は62.5と16.1ポイント上昇した。



○ 全業種（総合）の回答内容をみると、2～3ヵ月先には「良くなる」は1.4%であり、「やや良くなる」が24.3%、「変わらない」が47.3%、「やや悪くなっている」が13.5%、「悪くなっている」が13.5%となった。



（２）先行き判断の理由

先行き判断の理由として、家計では「来客者数の動き」、企業動向関連では「受注量や販売量」「取引先の様子」、雇用動向関連では「周辺企業の動き」などが多く挙げられた。

項　目（家計）	良い	不変	悪い	合計
1. 来客者数の動き	5	16	8	29
2. 販売量の動き	3	2	1	6
3. 単価の動き	0	0	0	0
4. お客様の様子	4	7	5	16
5. 競争相手の様子	0	0	0	0
6. それ以外	2	1	1	4
合　計	14	26	15	55

項　目（企業）	良い	不変	悪い	合計
1. 受注量や販売量	1	4	1	6
2. 受注価格や販売価格	0	0	0	0
3. 取引先の様子	1	2	3	6
4. 競争相手の様子	0	0	0	0
5. それ以外	0	0	1	1
合計	2	6	5	13

項　目（雇用）	良い	不変	悪い	合計
1. 求人数の動き	1	0	0	1
2. 求職者数の動き	0	1	0	1
3. 採用者の動き	0	0	0	0
4. 周辺企業の動き	1	2	0	3
5. それ以外	1	0	0	1
合計	3	3	0	6

３　市内景気に関する自由意見

（アンケート自由意見欄にご記入頂いた内容。
記入された方が特定される情報等は割愛させていただきました。
また、同種のご意見はまとめさせていただきました。）

（新型コロナウィルスの影響等について）

○ 緊急事態宣言から急激に客足が悪くなっている。
○ 新入学シーズンであるが、コロナ禍のせいか動きが低調である。
○ コロナ禍において人の流れが止まっている感じである。
○ コロナ禍の影響で来店客数が減少し、また滞留時間も短くなり深刻な状況が続いている。
○ コロナの影響でお客様の消費動向、旅行、観光需要が低下。イベントの売上が悪くなった。
○ 台風での水害、新型コロナウイルスによる不要不急の外出を控えるにあたりまったく仕事が動かない。お店をどうして守っていけばいいのか日々悩んでいる所である。
○ 当店は飲食店なので「コロナ」の影響をまともに受けており最低の状況が一年以上続いている。このような時期に2～3ヵ月のスパンの状況変化のアンケートは意味がない。
○ 昨年、今年とコロナの中答えようがない!! 先が見えない。
○ 地震、水害などの自然災害やコロナ禍が続き外出自粛や購買意欲の減少などが景気のマイナス要因になっていると思う。

（政策・公的支援策等について）

○ 1年以上コロナ禍により会社はひどい状況である。いわき市独自の協力金を期待する(支援金、一時金も)
○ 市の保障等十分にお願いしたい。
○ コロナのワクチン接種に期待したい。
○ 新型コロナ禍とワクチン次第。GoToトラベルキャンペーンの影響も大きい。

（今後の見通し等について）

○ 新型コロナ次第だと思う。
○ とにかくこのコロナ禍が終息しなければ町にお客さんが戻って来ない。
○ コロナ禍の影響が強いがワクチン接種等で感染量の減少で経済も回復することに期待したい。
○ 今までの仕事は減少しているが新しい仕事が増えてきた。ワクチンの接種が進めば安心感が経済に良い影響を及ぼす。
○ 緊急事態宣言後、せっかくGOTOで回復気味のレジャー産業、飲食業がまた落ち込む中、ワクチン接種も始まり、今後の景気回復に期待が持てるかとは思う。ただ、それはまだ先の事で、今年一年位は厳しい状況が続くと思われる。
○ コロナで県の自粛要請のおかげで飲食店を利用する人が減った。後2～3ヶ月も続いたら、自店は閉店に追い込まれてしまう。
○ コロナの感染状況が大きく影響すると思うが、これまでの外食関連、製造業、宿泊サービス業等の大きな落ち込みによる本格的な影響が幅広く出てくると思われる。
○ コロナの影響もあり、景気後退はどれぐらい続くのか予想もできない。コロナ回復後も、通常に戻るにはかなりの年月がかかるのではないかと危惧している。また、大きな工事需要もなく新たな需要が見込めない。
○ 世界情勢の行方が影響する。

－いわき市景気ウォッチャー調査の概要－

（１）調査の目的

市内の家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の事業所等で働く市民の方々を対象にアンケートを実施することにより、いわきの街角景気及びその変化を迅速かつ的確に把握する。

（２）調査客体及び有効回答率

家計動向関連79人、企業動向関連23人、雇用関連8人の合計110人を調査客体とする。
今回（令和3年2月）の調査の回答数は79人（有効回答率67.4%）である。

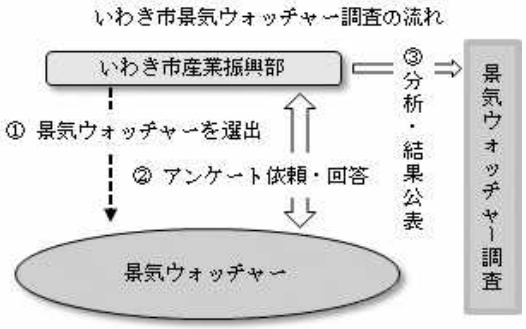
分野	調査客体	構成比	有効回答数	業種
家計動向関連	79人	72%	55人	
小売関連	36人	33%	26人	小売店、スーパー、コンビニ等
飲食関連	9人	8%	4人	居酒屋、ファーストフード等
サービス関連	26人	24%	19人	タクシー、ホテル、観光施設等
住宅関連	8人	7%	6人	工務店、不動産販売・仲介・賃貸等
企業動向関連	23人	21%	13人	広告、ビル管理、警備、会計等
雇用関連	8人	7%	6人	人材派遣、職業紹介等
合　計	110人	100%	74人	

（３）調査客体

次の事項について、毎年2月、5月、8月、11月に調査を実施する。
1)　景気の現状に対する判断（方向性）とその理由
2)　景気の先行きに対する判断（方向性）とその理由

（４）調査方法

いわき市産業創出課において景気ウォッチャーを任命し、調査を実施する。調査票の配付・回収・結果の分析は産業創出課と外部調査機関（㈱社会ｼｽﾃﾑﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ）が協力して行う。調査結果は、産業創出課が原則として調査の翌月に公表する。



（５）ＤＩの算出方法と見方

景気の現状や先行きに対する判断を次の5段階に区分し、各回答区分の構成比（%）に対して、対応する点数を乗じることによりＤＩを算出する。
ＤＩは50が景気判断の分かれ目であり、50を上回れば景気の拡大局面、50を下回れば後退局面と判断する。

回答区分						
	現状判断（3ヵ月前と比較）	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き判断（3ヵ月後の見通し）	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		1	0.75	0.5	0.25	0

（６）景気ウォッチャー調査票

調査票は、原則としてFAXまたはメールにより配付・収集を行う。

いわき市景気ウォッチャー調査票（令和　年度第　回）

平成 30 年　　月　　日

ご回答者

ご所属・お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿**様**

あなたの身の回りの景気（仕事の状況や、仕事を通じて接するお客様の様子）についてご回答ください。

該当項目を１つだけ選択し、番号に○をしてください。例：①　良くなっている。

【質問１】 今月の景気は**３ヵ月前と比べて、**良くなっていると思いますか、悪くなっていると思いますか？ １つお答えください。	1　良くなっている 2　やや良くなっている 3　変わらない 4　やや悪くなっている 5　悪くなっている
【質問２】 質問１のご回答理由では、どのような点に最も着目しましたか？ １つお答えください。	1　来客数の動き 2　販売量の動き 3　単価の動き 4　お客様の様子 5　競争相手の様子 6　それ以外
【質問３】 あなたの仕事の状況やお客様の様子からみて、**２～３ヵ月先は、**今月より良くなっていると思いますか、悪くなっていると思いますか。 １つお答えください。	1　良くなる 2　やや良くなる 3　変わらない 4　やや悪くなる 5　悪くなる
【質問４】 質問３のご回答理由では、どのような点に最も着目しましたか？ １つお答えください。	1　来客数の動き 2　販売量の動き 3　単価の動き 4　お客様の様子 5　競争相手の様子 6　それ以外
【自由回答（市内景気動向に関して）】	

※質問２、４について、上記は家計動向関係向けの選択肢の内容。
企業動向関係、雇用関係向けの選択肢の内容は次の通り。

企業動向関係
1　受注量や販売量の動き
2　受注価格や販売価格の動き
3　取引先の様子
4　競争相手の様子
5　それ以外

雇用関係
1　求人数の動き
2　求職者数の動き
3　採用者の動き
4　周辺企業の動き
5　それ以外

編集・発行　いわき市　産業振興部　産業創出課
〒970-8686　いわき市平字梅本 21 番地
電　話　０２４６－２２－１１２６（直通）
e-mail：sangyosoushutsu@city.iwaki.lg.jp